



上青木中だより

凡事徹底

～当り前のことが当り前にできる生徒・学校・教職員～

今、生徒たちに求められている力

校長 小野 毅

日本政府が「第5期科学技術基本計画」の中で提唱した、日本が目指すべき未来の社会の姿を「Society 5.0」と言います。人間社会のこれまでの変遷を、狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (2.0)、工業社会 (3.0)、情報社会 (4.0) とし、これに続く新たな社会として「Society 5.0」が想定されています。

その中身は、一言で表すと「超スマート社会」。IoT (Internet of Things) ですべての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有されます。また、人工知能 (AI) により、必要な情報が必要な時に提供されるようになります。AIが冷蔵庫にある食材でレシピを提案してくれたり、自宅に居ながら専門医による遠隔診断を受けられたり……。年齢や個人のスキル、住む地域、経済力などに関わらず、誰もが新たな恩恵を受け、快適で活力に満ちた質の高い生活を送れるようになる。これが、「Society 5.0」が目指す社会の姿です。

(下図参照)

「Society 5.0」では、今まで人間が行っていた作業をAIやロボットが代行・支援するため、人間は煩雑な作業から解放され、他の創造的な仕事に注力できると言われています。これは裏を返せば、人間の仕事がAIやロボットに奪われるということでもあるのです。

しかし、AIと人間を対立的に捉え、不安になる必要はありません。AIやロボットは人間の能力をサポートし、可能性を広げてくれる道具と捉え、「人間にしか出来ないこと」「自分だけの強み」を磨いていけば良いのです。文部科学省では、「Society 5.0」で共通して求められる力を次の3つにまとめています。

- 1 文章や情報を正確に読み解き、対話する力
- 2 科学的に思考・吟味し、活用する力
- 3 価値を見つけ、生み出す感性と好奇心・探求力

新学習指導要領が告示され、中学校では、2018年から先行実施期間となり、2021年から全面実施となります。上記の3つの力を生徒に確実に身につけさせられるよう、本校教職員は今後も研修に励んで参ります。

